

日本生体医工学会平成 26 年度第 1 回理事会 議事録

日時：平成 26 年 6 月 23 日（月） 15:00-18:00

会場：仙台トラストシティプラザ 5階 Room4

出席：

理事長	副理事長	理事				理事・関西支部長										監事		新理事候補				新監事候補	幹事			
千田 彰一	木村 裕一	杉町 勝	石原 謙	伊関 洋	大城 理	大須賀美恵子	楠岡 英雄	椎名 毅	砂川 賢二	田村 俊世	中沢 一雄	野村 泰伸	増山 理	松田 哲也	松村 泰志	山森 伸二	吉田 正樹	阿部 裕輔	山口 隆美	佐久間一郎	村垣 善浩	橋爪 誠	山家 智之	牧川 方昭	西條 芳文	南部 雅幸
○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	×	○

第 5 4 回大会長	第 5 4 回事務局	北海道支部長	東北支部長	甲信越支部長	関東支部長	東海支部長	北陸支部長	中国・四国支部長	九州支部長
岩田 彰	小栗 宏次	清水 孝一	松木 英敏	小林 俊一	福井 康裕	平井 真理	村瀬 一之	木内 陽介	榑木 晶子
○	○	×	○	○	×	×	×	○	×

配付資料

- 26-1-2 平成 25 年度第 5 回理事会議事録
- 26-1-3-① 平成 26 年度第 1 回理事会入退会状況の件
- 26-1-3-② 5 年以上会費未納者
- 26-1-4 選奨各賞受賞者決定報告
- 26-1-6-① 専門別研究会評価委員会報告
- 26-1-6-② 生体医用画像研究会の今年度予算
- 26-1-7-① 編集状況報告（生体医工学シンポジウム含む）
- 26-1-7-② ABE 電子投稿システムの導入の必要性和費用について
- 26-1-7-③ 大会予稿の形式に関するアンケート結果報告と方針について
- 26-1-8 生体医工学シンポジウムについて

- 26-1-9 公益法人化への作業に関して
- 26-1-11
- その他-① (株) CE コーポレーションの覚書の締結
- その他-② ME の基礎知識と安全管理・改訂第6版 出版契約書
- その他-③ 持ち回り審議結果について
- ・2017年 IEEE 韓国開催の支援について
 - ・生体医工学科連絡委員会の予算について
 - ・平成25年度選奨授賞について
- その他-④ 協賛等の状況 (資料回覧)

1. 大城理事より理事会成立を確認し、開会を宣言
2. 前回議事録承認 (大城理事) 資料26-1-2
資料1 誤：理事長選出について→正：理事長候補者選出について
3. 入退会状況の件 (大城理事) 資料26-1-3-①, ②
5年以上会費未納者リスト (116名)
上記リストに記載された116名について退会扱いとする。
1814名→1698名
5年滞納になって時点で督促すると未納の会費が高額になるのでこまめに督促してはどうか。滞納者に対する督促は年3回実施している。
4. 選奨について (中沢理事) 資料26-1-4
報告：資料に記した各賞について受賞者が決定した。
訂正 新技術開発賞受賞者のうち、下段 誤：オムロンヘルスケア → 正：オムロン
5. 平成25年度収支決算、平成26年度収支予算案について (松田理事)
資料 平成26年度 定時社員総会資料 (決算・予算案)
平成25年度決算
共同開催の IEEE-EMBC-2013 の収支について IEEE からの振込が未実施のため
人件費、機器使用料、会議費を除き収入・支出ともに0円としている。
(砂川 EMBC 大会長)

現在1社を除き支払いが完了しているが、1社のみ IEEE との交渉が長引いている。6月30日には間に合わない公算が大きい。

6月30日までに決算を内閣府へ提出する必要がある。間に合わない場合は後日臨時総会を開催し提出しなおす必要がある。

会計士からは学術集会事業のみ途中であるとし、来年度に繰り越して次年度会計で合わせて報告することとする。もし内閣府がこれを受け付けない場合は臨時総会を開催する。

総会では、学術集会事業の収支が途中であり、収支が完了した時点で来年度の決算と合わせて決算とすることになる場合があると報告する。

内閣府が承認しない場合は臨時総会を開催する可能性がある。

(監査報告として 阿部監事より報告する)

内閣府が承認しない場合のリスクはあるのか？

予算との乖離は1000万円程度なので、理由書で対応できると思われる。

臨時総会は委任状をもって対応すればよいと思われる。

平成26年度予算

学術集会分が増額されている以外は前年度とほぼ同様の予算である。

6. 専門別研究会評価委員会報告 (事務局 武田氏) 資料26-1-6-①

ユビキタス研究会は一旦解散し新たに研究会「ユビキタス情報メディアと医療システム研究会」を新規申請する。

東日本大震災に対する復興支援研究会は一旦解散し新たに研究会「Active Agingを支援するバイオメディカル工学研究会」を新規申請する

報告書が未提出の研究会については平成26年度予算を0円とする。

この状態が続けば継続を取り消すことがある。

学会事務局会計にすれば問題解決になると思われるが、各研究会が繰越予算を持っているため、その取扱をどうするか。次回の専門別研究会評価委員会で検討する。

各研究会のホームページを充実してもらいたい。

広報委員会から提案

支部・専門別研究会のホームページを学会で管理して欲しい。

現在のレンタルサーバであれば各支部・専門別研究会のホームページを設定し管理ができるように対応可能である。初期設定は広報委員会で行う。見た目の統一とセキュリティについては管理を行う。

上記提案は承認された

岩田 27 年度大会長より依頼 27 年度ホームページ，もしくはホームページの履歴を学会サーバに設置させて欲しい。広報委員会で検討する。

生体医用画像研究会の今年度予算について（木村理事） 資料 26-1-6-②
医用画像系の国際シンポジウム IFMIA が開催されるにあたり， ABE で特集号を出版する予定である。これについて専門別研究会予算とは別に共催金 2 万円を支出いただきたい。

日本生体医工学会の共催事業として共催金 2 万円を承認する。

7. 編集委員会について（木村理事） 資料 26-1-7-①

審議事項

(1) オンライン投稿システムの導入について 資料 26-1-7-②

Impact Factor を取得するために投稿しやすい環境を整備する必要がある。そのために Editorial Manager を使用してオンライン投稿システムを構築する必要があるが，年間使用料 28 万円と初年度は 54 万円が必要である。

承認された。

Impact Factor 取得のために invited review paper を増やす必要がある。

(2) 大会予稿の形式について（杉町理事） 資料 26-1-7-③

大会予稿を J-Stage でアーカイブ化したい。これについてアンケートを行った結果，概ね下記のように意見をまとめる。

(1) 予稿の価値はそれほど高くない

(2) フルペーパーを 100 とした場合予稿は最大 30

(3) 大会予稿はフルペーパーと全く内容が一致していれば
多重投稿の対象となるというのが一般的である。

(4) 予稿が A4 で 1 ページの場合は多重投稿の対象と
ならないという意見が一般的である。

(5) 予稿集に抄録の体裁を取るものが混在してよいか？

→ 審議事項

- (6) フルペーパーでは新規性が主張されれば多重投稿とはしないほうがよいのではないか→編集委員会で検討
- (7) 多重投稿については罰則も含め対策が必要である

審議事項

抄録：数百字，図表なし

予稿：2－4 ページ 図表あり

として抄録だけにするか，予稿ありの混在も認めるか

工学系では，教育的効果が高いので残すべきである．医学系は予稿は業績としてカウントされず，むしろ多重投稿の対象となるのでやめたい．

混在は体裁の面で問題があるという意見があるが，ダウンロードのみにするというこ
とで，出版はしない編集部が混在を認めるという説明・意思表示をすることで対応す
る．発表を奨励するという点では混在であるべき．

現時点では混在という意見が多いようなので抄録・抄録＋予稿の混在を認めるが，学
会・編集委員会が予めその旨をホームページ等で説明する．

- 8. 生体医工学シンポジウムについて (大城理事) 資料26-1-8
生体医工学シンポジウムの日本生体医工学会主催行事への変更をお願いしたい．

数年に一回見直しをする必要があるのではないかとフレキシブルな運営を目指して来た
が全体行事となると規約を決める必要なども問題になるため自由度が減る可能性があ
るが，メリット・デメリットをどうとらえるか？

次回以降の検討課題とする．

- 9. 公益法人化について (阿部監事)
公益法人化への作業について 資料26-1-9
平成26年度 定時社員総会資料中訂正部分
35 ページ 右側5行目 1年→2年
38 ページ 右側下から4行目 監事 2名→3名

内閣府の承諾が得られた場合

平成25年度決算が出た後臨時理事会で承認→直ちに申請

内閣府の承諾が得られなかった場合

平成25年度決算が出た後臨時総会を開催し承認→直ちに申請

上記の作業を行った上で2015年4月1日に登記が間に合わなかった場合

(1) 1年延長して登記

(2) 7月登記

10. 第53回大会準備状況 (松木大会長報告)

発表 300件

参加者が例年通り600名程度を期待

11. 第54回大会準備状況 (岩田大会長)

2015年5月7日-9日 名古屋国際会議場

12. その他

資料 26-1-11-① CE コーポレーションへの業務委託

資料 26-1-11-② ME の基礎知識と安全管理改訂版の出版契約

資料 26-1-11-③ 持ち回り審議事項

資料 26-1-11-④ 他団体との後援・協賛状況 (資料回覧)